

公園に桜がある風景を

鷹巣コミュニティ推進協議会が植樹

4月8日、東日本大震災で被害を受けた緑が丘第1公園に桜が咲き誇る風景を取り戻したいと、鷹巣コミュニティ推進協議会(菊地忠男会長)が主催する植樹が同公園で行われました。植樹には、同会のメンバー10人が参加。スコップで土を掘り、桜の苗木20本を丁寧に植えました。今回の植樹は、同会の思いに賛同した白石益岡ライオンズクラブからの申し出で実現したもの。同協議会の事務局で緑が丘自治会の茂林憲童自治会長は、「苗木の寄付は大変ありがたい。震災前のように桜が咲き誇る公園になってくれたらうれしいです」と話していました。



▲苗木の寄付を喜ぶ鷹巣コミュニティ推進協議会のメンバー

春の香りを感じながら南蔵王を歩く

しろいし健康ウォーク 歩こう！ 南蔵王野営場

4月20日、「しろいし健康ウォーク」を南蔵王野営場で開催し、30歳代～80歳代までの約50人が春の香りを感じながらウォーキングを楽しみました。参加者は、野営場の佐々木知明場長からコース内の見所や植物の説明を受けながら、約5kmの散策路を思い思いのペースでウォーキング。カタクリやマイズルソウなどの春の草花と南蔵王の自然を満喫しました。初めて参加した方は、「野営場は、草花などの自然を楽しみながら歩くことができるいい場所。四季折々の季節に家族や友人を連れて来たいですね」と話していました。



▲南蔵王の自然を満喫しながらウォーキングする参加者の皆さん

切磋琢磨してレベルアップ

第13回中学生サッカー交流大会

4月29日・30日・5月3日の3日間、「佐藤浩杯第13回中学生サッカー交流大会」が白石川サッカー公園で開催されました。大会には県南の12校が参加。本市からは白石中、福岡中の2校が参加しました。本市から参加した選手たちは、日ごろの練習の成果を出しきろうとプレーしましたが、チャンスを活かすことができず予選敗退。決勝は亙理中と船岡中が対戦し、亙理中が優勝しました。県南の中学校の生徒たちの技術の向上などを目的に、白石サッカー協会の発足を記念してスタートしたこの大会。選手たちは大会で経験を積み、成長しました。



▲力強くシュートを放つ白石中の選手

楽しそうな笑い声が響き渡る

中央公民館で「第36回こどもまつり」

5月12日、「第36回こどもまつり」が中央公民館で開催されました。この日は、来場者とスタッフ合わせて約800人が参加。シャボン玉やペットボトルボウリングコーナーなどが設けられたほか、まつりの最後に来場者全員で「白石うーめん体操」を踊るなど、会場は、子どもたちの楽しそうな笑い声であふれていました。このまつりには、市内の母親クラブや子ども会育成会、民生委員・児童委員、児童館、ジュニアリーダーなど多くの団体が参加。団体の垣根を越えて、地域が連携して子どもたちの健全育成を応援しています。



▲楽しそうにシャボン玉で遊ぶ子どもたち

心を込めて花を植え観光客をお出迎え

東白石駅前を花で飾ろう



▲小雨が降る中、心を込めて花を植えた参加者の皆さん

4月21日、仙台鉄道少年団と東日本鉄道OB会の約30人が、東白石駅前に設置された花壇に約100本の花植えを行いました。この取り組みは、「仙台・宮城ステーションキャンペーン」に合わせ観光客の皆さんを真心を込めて植えたいきれいな花でお出迎えしようと企画されたもの。この日は、昨年から東白石駅の名誉駅長に就任した市内在住の城正男さんが、「駅を花で飾り、訪れる人たちに少しでも楽しんでもらいましょう」とあいさつ。参加者は「駅を訪れる人たちが気持ちよく利用してくれたらうれしいです」と笑顔で話してくれました。

100歳おめでとうございます

鈴木とめさんに松竹梅敬老祝金を贈呈



▲ご家族のほか入所者や施設職員がとめさんの長寿を祝福

4月22日、満100歳を迎えた鈴木とめさんを風間市長が訪ね、祝詞と松竹梅敬老祝金を贈り長寿を祝福しました。とめさんは福岡深谷のご出身で、結婚後は家業の酒店に勤めながら5人の子どもを育て、現在は孫が11人、ひ孫が7人います。「長寿の秘訣は体に良いものを食べて、老いても無理のない運動を続け、できることは自分で行うこと」というとめさん。現在は寝ていることが多く、地域密着型特別養護老人ホームひだまりに入所されていますが、この日は、ご家族のほか入所者や施設職員も集まりみんなでとめさんの長寿をお祝いしました。

手づくりのぬくもり

第9回手づくりの市



▲ぬくもりを感じる作品が勢ぞろい

5月11日、12日の両日、趣味のグループや個人が手づくりした作品を展示、販売する「第9回手づくりの市」(同実行委員会主催。大野美智子委員長)が壽丸屋敷で開催されました。「まちなかににぎわいを」と平成18年に始まったこの催しも今回で9回目。会場には、バッグや小物、アクセサリーなど幅広いジャンルの作品が展示され、来場者は一つ一つの作品を手に取りながら、出店者との会話を楽しんでいました。今年は13のグループ・個人が出展し、2日間で約1,700人が来場。売上金の一部は、実行委員長から市に寄付されました。

広げよう 地域に根ざした 思いやり

「民生委員・児童委員」一斉活動



▲すまいるひろばで出発式を行う民生委員・児童委員の皆さん

全国民生委員児童委員連合会が5月12日を「民生委員・児童委員の日」と定めていることに合わせて、5月16日、市内の民生委員・児童委員約100人が、高齢者宅などを対象とした一斉訪問活動を行いました。すまいるひろばで行われた出発式で、民生委員児童委員協議会の日下仁一会長は「震災の教訓を活かし、災害に備えましょう」とあいさつしました。またこの日は、多様化する福祉ニーズにこたえようと、宮城県薬物乱用防止指導員の白石益岡ライオンズクラブの富岡和弘さんを講師に招き、薬物乱用の現状を研修。参加者は熱心に耳を傾けていました。